

# **香川県埋蔵文化財センター年報**

平成 20 年度

2009.7

**香川県埋蔵文化財センター**



旧練兵場遺跡　弥生時代後期豎穴住居跡群　（南から）



旧練兵場遺跡　SH1020a 出土九州系土器  
(弥生時代後期前半)



旧練兵場遺跡　出土鏡片  
(手前が SD3151a 出土)

## は　じ　め　に

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和62年11月1日に設置されました。

平成20年度は、埋蔵文化財の発掘調査、整理作業、報告書刊行、出土品の保管・管理、普及啓発事業を実施いたしました。

発掘調査事業は、国道建設、県道整備、県立学校移転等の事業に伴って、6遺跡で16,008m<sup>2</sup>の発掘調査を実施いたしました。

整理・報告事業では、国機関や県道の整備等の事業に係る6遺跡の発掘調査の出土品を整理し、順次報告書を刊行して、調査成果の公表を行ってまいりました。

普及・啓発事業は、当センター第1展示室で常設展示を行うとともに、第2展示室で「埋蔵文化財発掘調査速報展」を4回開催するとともに、出土品を地元で公開する「ふるさと展示」を6回開催したほか、5回目となる四国の埋蔵文化財センター合同の巡回展「発掘へんろ～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～」を四国各県で開催いたしました。また、広報誌「いにしえの讃岐」や研究紀要の刊行のほか、小学校への出前授業や考古学体験講座等を通じて、埋蔵文化財調査事業の周知を図りますとともに、埋蔵文化財の保護意識の普及・啓発に努めてまいりました。

このたび、これらの事業概要をまとめた平成20年度の年報を刊行いたしました。この年報によつて、香川県埋蔵文化財センターの活動が広く周知され、埋蔵文化財を活用するための一助となれば幸いです。

最後になりましたが事業の実施に際しまして、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げますとともに、当センターの運営につきまして皆様方の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、ごあいさつといたします。

平成21年8月

香川県埋蔵文化財センター

所長 大山真充

## 本文目次

I	平成20年度の事業概要	1
1	埋蔵文化財調査事業	1
2	普及・啓発事業	2
II	埋蔵文化財調査事業	3
1	国事業に伴う発掘調査事業	3
仲戸東遺跡	4	
仲戸遺跡	7	
誉水中筋遺跡	9	
2	県事業に伴う発掘調査事業	11
多肥平塚遺跡	12	
東坂元秋常遺跡	15	
旧練兵場遺跡	17	
3	整理・報告事業	27
III	普及・啓発事業	28
1	展示	28
2	現地説明会・現場見学	33
3	講師の派遣	34
4	坂出市立府中小学校との連携事業（「よろこび学習」）	36
5	夏休み子どもミュージアム	37
6	考古学体験講座「発掘！ドキ（土器）メキ 夏休み！」	39
7	考古学体験講座「青銅鏡をつくろう！」	39
8	広報誌の刊行	39
9	文化ボランティア活動	39
10	資料の貸出・利用	41
11	研究紀要の刊行	41
12	新聞連載	41
13	博物館実習・職場体験学習	42
14	刊行物一覧	42
IV	組織・施設	43
1	香川県埋蔵文化財センターの組織	43
2	施設の概要	44

## 挿 図 目 次

第1図 発掘調査遺跡位置図 ······	2	第12図 遺跡周辺10cm等高線図 ······	14
<b>仲戸東遺跡</b>		<b>東坂元秋常遺跡</b>	
第2図 遺跡位置図(1/25,000) ······	4	第13図 遺跡位置図(1/25,000) ······	15
第3図 遺跡周辺地形略図 ······	5	第14図 東坂元秋常遺跡遺構配置図 ······	16
第4図 仲戸東遺跡遺構配置図 ······	6	<b>旧練兵場遺跡</b>	
<b>仲戸遺跡</b> ······		第15図 遺跡位置図(1/25,000) ······	17
第5図 遺跡位置図(1/25,000) ······	7	第16図 遺構全体図 ······	20
第6図 仲戸遺跡遺構配置図(1/500) ···	8	第17図 遺構配置図(弥生中期) ······	21
<b>誉水中筋遺跡</b>		第18図 遺構配置図(弥生後期～終末期) ···	22
第7図 遺跡位置図(1/25,000) ······	9	第19図 遺構配置図(古墳前期～後期) ···	23
第8図 誉水中筋遺跡遺構配置図 ······	10	第20図 遺構配置図(古墳末～古代以降) ···	24
<b>多肥平塚遺跡</b>		第21図 1A区 SH1020a (九州系住居)平面 ······	26
第9図 遺跡位置図(1/25,000) ······	12	第22図 旧練兵場遺跡出土遺物実測図 ···	26
第10図 多肥平塚遺跡遺構配置図 ······	13		
第11図 高松平野地形分類図(高橋1992より転載一部改変) ······	14		

## 写 真 目 次

<b>仲戸東遺跡</b>		<b>多肥平塚遺跡</b>	
写真1 調査区北半全景(東から) ······	5	写真12 IV区SD01全景(南から) ······	13
写真2 調査区東半全景(西から) ······	5	写真13 III区北半部全景(南から) ······	13
写真3 SR03遺物出土状況(西から) ·····	6	<b>東坂元秋常遺跡</b>	
写真4 SR03土層断面(西から) ······	6	写真14 弥生時代の溝状遺構(北東から) ···	15
<b>仲戸遺跡</b>		写真15 弥生時代の土坑 土器出土状況(東から) ······	16
写真5 繩文時代の河川跡から 土器が出土した様子 ······	8	写真16 鎌倉時代の土坑 遺物出土状況(南から) ······	16
写真6 繩文時代の木株 ······	8	写真17 平安時代の掘立柱建物跡(南から) ·	16
写真7 繩文時代の河川跡と 弥生時代前期の用水路跡 ······	8	<b>旧練兵場遺跡</b>	
<b>誉水中筋遺跡</b>		写真18 3A区 弥生中期SB3914a完掘状況 (西から) ······	25
写真8 遺構西半分 全景 (東から) ·····	10	写真19 3A区 完掘状況 (北から) ······	25
写真9 中世建物群 (南から) ······	10	写真20 4A区 弥生後期堅穴住居跡群 (南から) ······	25
写真10 和鏡出土状況 ······	10		
写真11 和鏡 X線写真 ······	10		

写真21	4 A区 堪穴住居跡群完掘状況 (垂直) ······	25	写真34	府中小との連携事業(土器炊飯) ······	32
写真22	SH1020a出土九州系土器 (弥生後期前葉) ······	25	写真35	夏休みサポートデスク ······	34
写真23	漢鏡片 3B区SD3151b出土 ······	25	写真36	出前授業 ······	34
写真24	1 A区 SH1020a(九州系住居) 北から ······	26	写真37	出前授業(土器焼) ······	34
普及・啓発事業					
写真25	第1展示室 ······	29	写真38	むかしむかし体験まつり (土笛づくり) ······	38
写真26	第2展示室 ······	29	写真39	むかしむかし体験まつり (分鉗形土製品づくり) ······	38
写真27	展示解説会 ······	29	写真40	夏休み子どもミュージアム こども考古学教室 ······	38
写真28	展示解説会(発掘へんろ) ······	29	写真41	夏休み子どもミュージアム こども考古学教室 ······	38
写真29	発掘体験学習 ······	32	写真42	文化ボランティアによる指導 (堅樹づくり) ······	38
写真30	小学校の遠足風景 ······	32	写真43	文化ボランティア現場研修 ······	38
写真31	森の文化祭 ······	32	写真44	弥生人体验キャンプ ······	38
写真32	体验学習(土器焼きとまち歩き) ······	32	写真45	弥生人体验キャンプ ······	38
写真33	府中小との連携事業(出前事業) ······	32			

## 表 目 次

第1表	発掘調査遺跡一覧 ······	1	第12表	現地説明会・現地見学会一覧 ······	33
第2表	整理・報告遺跡一覧 ······	2	第13表	発掘調査現場見学団体一覧 ······	33
第3表	平成20年度 国事業に伴う発掘調査事業一覧 ······	3	第14表	講演・講座等への講師派遣一覧 ······	35
第4表	平成20年度 県事業に伴う発掘調査事業一覧 ······	11	第15表	学校への講師派遣一覧 ······	36
			第16表	坂出市府中小学校との 連携事業一覧 ······	36
第5表	整理事業一覧 ······	27	第17表	夏休み子どもミュージアムと 考古学体験講座等一覧 ······	37
第6表	刊行発掘調査報告書一覧 ······	27	第18表	広報誌「いにしえの讃岐」一覧 ······	40
第7表	速報展一覧 ······	28	第19表	試料貸出・利用一覧(数字は件数) ······	41
第8表	速報展展示解説会一覧 ······	29	第20表	博物館実習・職場体験学習一覧 ······	42
第9表	展示室入館者数 ······	29	第21表	職員一覧 ······	44
第10表	展示室入館団体一覧 ······	30			
第11表	センター外展示一覧 ······	31			

\* 地図は国土地理院地形図を使用しました。

# I 平成 20 年度の事業概要

## 1 埋蔵文化財調査事業

総務課、調査課、資料普及課の3課体制で埋蔵文化財調査事業を実施した。

### (1) 発掘調査事業

3班体制で、国道バイパス建設、県道整備等の6遺跡の発掘調査を行った。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間
国土交通省	国道 11 号 大内白鳥 バイパス建設	仲戸遺跡	東かがわ市川東	4,704	平成 20 年 7 月～ 平成 21 年 1 月
		仲戸東遺跡			平成 20 年 9 月～ 平成 21 年 3 月
		誉水中筋遺跡	東かがわ市中筋	4,459	
香川県道路課	国道 438 号道路改築 (飯山工区)	東坂元秋常遺跡	丸亀市飯山町	2,210	平成 20 年 4 月～ 平成 20 年 8 月
	太田上町志度 線道路改良 (太田工区)	多肥平塚遺跡	高松市多肥上町	1,995	平成 20 年 4 月～ 平成 20 年 6 月
香川県教育委員会 特別支援教育課	善通寺養護 学校移転	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	2,640	平成 20 年 4 月～ 平成 21 年 3 月
合 計				16,008	

第 1 表 発掘調査遺跡一覧

### (2) 整理・報告事業

善通寺病院統合、県道整備等の 11 遺跡の整理及び調査報告書の刊行を行った。

原因者	遺跡名	所在地	種別	整理期間
善通寺病院 (国立病院機構本部)	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	整理・印刷	平成 20 年 4 月～ 平成 21 年 3 月
香川県道路課	東坂元三ノ池遺跡	丸亀市飯山町	印刷	平成 19 年度
	庄八尺遺跡	多度津町	印刷	平成 19 年度
	本郷遺跡	高松市西山崎町	印刷	平成 19 年度
	川原遺跡	高松市中間町	印刷	平成 19 年度
	高屋条里遺跡	觀音寺市高屋町	整理	平成 20 年 11 月～ 平成 20 年 12 月
	津森位遺跡	丸亀市津森町	整理	平成 21 年 1 月～ 平成 21 年 3 月
香川県 都市計画課	木太中村遺跡	高松市木太町	整理・印刷	平成 20 年 7 月～ 平成 20 年 8 月
	文京町二丁目西遺跡	坂出市文京町	整理・印刷	平成 20 年 9 月～ 平成 20 年 10 月

香川県 河川砂防課	大灘遺跡	高松市由良町	整理・印刷	平成20年4月～ 平成20年6月
香川県教育委員会 高校教育課	鹿伏・中所遺跡	三木町	保存処理・印刷	平成19年度

第2表 整理・報告遺跡一覧

## 2 普及・啓発事業

香川県埋蔵文化財センター保管の埋蔵文化財資料について、広範な活用を推進するために、展示会の開催や、資料の貸出等を積極的に行なった。

また、発掘調査現地説明会や、発掘調査体験学習会を開催することにより、県民が、直接埋蔵文化財に触れることができる機会を多数提供した。

さらに、学校や各種の生涯学習団体等の要請に基づき、専門職員を派遣することによって、埋蔵文化財を利用した出前授業等を積極的に行なった。このうち、坂出市立府中小学校との連携事業については、3カ年目を迎えた。

他に、過年度と同様に、広報誌及び研究紀要の刊行、新聞連載等を行なった。

なお、普及・啓発事業の実施に当たっては、文化ボランティアの協力を得た。



第1図 発掘調査遺跡位置図

## II 埋蔵文化財調査事業

### 1 国事業に伴う発掘調査事業

平成 20 年度の国事業は、国道 11 号大内白鳥バイパス建設工事に伴う発掘調査を、東かがわ市の 3 遺跡で実施した。

東かがわ市川東の仲戸東遺跡と仲戸遺跡は、東西約 100 m 隔てて隣り合う遺跡で、平成 20 年 7 月から 21 年 1 月までの期間で 1 班が調査に当った。

仲戸東遺跡は、与田川の支流である古川と低丘陵に挟まれた谷間の遺跡で、多数の土坑と開析谷を検出した。開析谷は弥生時代～中世の時期に埋没した谷跡で、古墳時代の堆積層中から須恵器の円筒埴輪及び形象埴輪、多量の焼土、炭化物等が出土した。これらの出土状況から推定して、隣接する低丘陵に埴輪窯跡が所在し、その灰原の遺物が谷跡に堆積したものと考えられる。また、検出した多数の土坑は古墳時代後期頃のもので、埴輪片を出土した土坑があることから、埴輪製作時の粘土採掘坑跡と考えられる。埴輪製作に係わる資料は、全国的にみても類例が少なく、大変貴重な調査成果になった。

仲戸遺跡からは、縄文時代後期～晩期の河川跡、弥生時代前期及び後期と、古代の溝状遺構等を検出しながら、居住域に係わるものは検出できなかった。そのため、周辺地域にこれらの時代の集落跡が所在する可能性が高いと判断された。

誉水中筋遺跡は、与田川の西側に位置し、平成 20 年 9 月から 1 班が調査に入り、21 年 2 月からはもう 1 班が調査に合流し、年度末まで 2 班体制で調査を実施した。この遺跡からは、弥生時代後期の河川跡や古代～中世の集落跡や土坑墓等を検出した。土坑墓周辺からは、中国産青磁碗、白磁壺、和鏡（桜花双鳥鏡）、石塔の破片等が出土し、貴重な調査成果になった。また、調査区の一部では、遺構との関係は不明確であるが、石製有孔円盤や小玉が集中して出土している区域があり注目できる。

遺跡名	調査面積	調査期間	遺構	遺物
仲戸東遺跡	1,009m <sup>2</sup>	平 20.7 ~ 平 20.10 跡	土坑、溝状遺構、谷	弥生土器、土師器、須恵器、埴輪
仲戸遺跡	3,695m <sup>2</sup>	平 20.7 ~ 平 21.1 遺構、土坑、河川跡	掘立柱建物跡、溝状 遺構、土坑、河川跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、 石器
誉水中筋遺跡	4,459m <sup>2</sup>	平 20.9 ~ 平 21.3 状遺構	掘立柱建物跡、土坑、 井戸跡、土坑墓、溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、 和鏡、石製有孔円盤、小玉

第 3 表 平成 20 年度 国事業に伴う発掘調査事業一覧

# 仲戸東遺跡 なかとひがしいせき

所在地 東かがわ市川東 692-1 ほか

調査期間 平成 20 年 7 月～ 10 月

調査面積 1,009m<sup>2</sup>

調査担当 山元素子 藏本晋司 今井千佳子

調査原因 国道 11 号大内白鳥バイパス建設

## 1. はじめに

仲戸東遺跡は、標高 97 m を最高所とする低丘陵より西へ下る小規模な解析谷と、二級河川古川との合流部付近に立地し、低丘陵より派生した舌状丘陵が調査区北端を縁取る。

調査の結果、弥生時代から中世に及ぶ各時期の遺構・遺物が出土した。

## 2. 調査の成果

複数時期の遺構・遺物を確認しているが、以下では、古墳時代の遺構・遺物について概要を報告する。古墳時代の遺構は、調査区北部において浅い流路状遺構 (SR03) を、南部において粘土採掘坑と考えられる多数の不定形土坑を確認した。

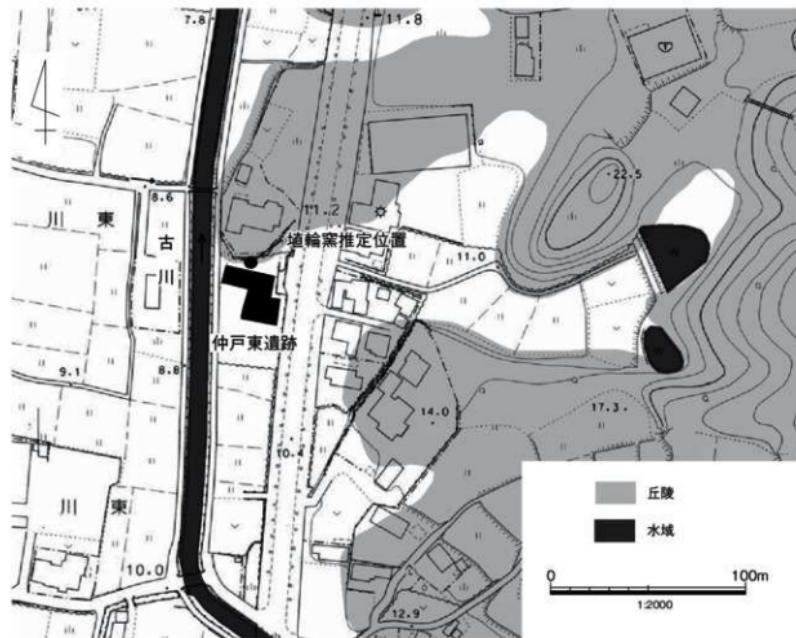
流路状遺構 (SR03) は、調査区北端部において緩く弧を描く平面プランを呈し、南部は古代の流路跡 (SX01) によって搅乱されていた。おそらくは低丘陵より流下する解析谷の一部と考えられる。埋土は 3 層に分層され、中位層には多量の炭・灰が混在し、北（舌状丘陵）側より流入した堆積状況を呈していた(写真 4)。遺物は各層より出土しているが、特に中位層上面からまとまった量が出土した(写真 3)。出土した遺物には、土師器や須恵器片のはか、須恵質円筒埴輪や形象埴輪が多量に含まれる。これまで遺跡周辺で埴輪を有する古墳の存在は知られておらず、また一部の埴輪に焼成失敗品を含むこと、埋土の堆積状況等から、北側の丘陵部に埴輪窯が存在し、本遺構はその灰原として利用されていた可能性が最も高いと判断された。

南部は安定した微高地に当り、強粘質の黄色系粘土の堆積による基盤層が確認され、その上面より上述した土坑群が開削されていた。南西部は中世前半までの遺物を含む砂層 (SR01) が粘土層を削りながら厚く堆積する。これは古川の旧流路跡もしくは氾濫堆積層と考えられる。土坑群内部からも土師器や須恵器とともに埴輪類が出土している。上述した埴輪窯の可能性から、これら土坑群は、埴輪焼成のための粘土採掘坑と判断した。遺物の出土状況などの点から、複数回の操業もしくは周辺で複数基の埴輪窯の存在が予想される。



第2図 遺跡位置図 (1/25,000)

出土した遺物は、土師器・須恵器のほかに、多量の円筒埴輪と形象埴輪がある。円筒埴輪は、全形は不詳だが、おそらくは3条突帯で、外面調整は縦ハケ調整のみ確認された。形象埴輪には、蓋・家・盾・船・馬・人物か・石見型埴輪がある。個体数は不明である、多くとも各種數個体程度と思われる。また、船形埴輪は、長さ約1mの大型品である。これらの特徴から、川西編年V期に当る6世紀初頭を前後する時期と考えられる。



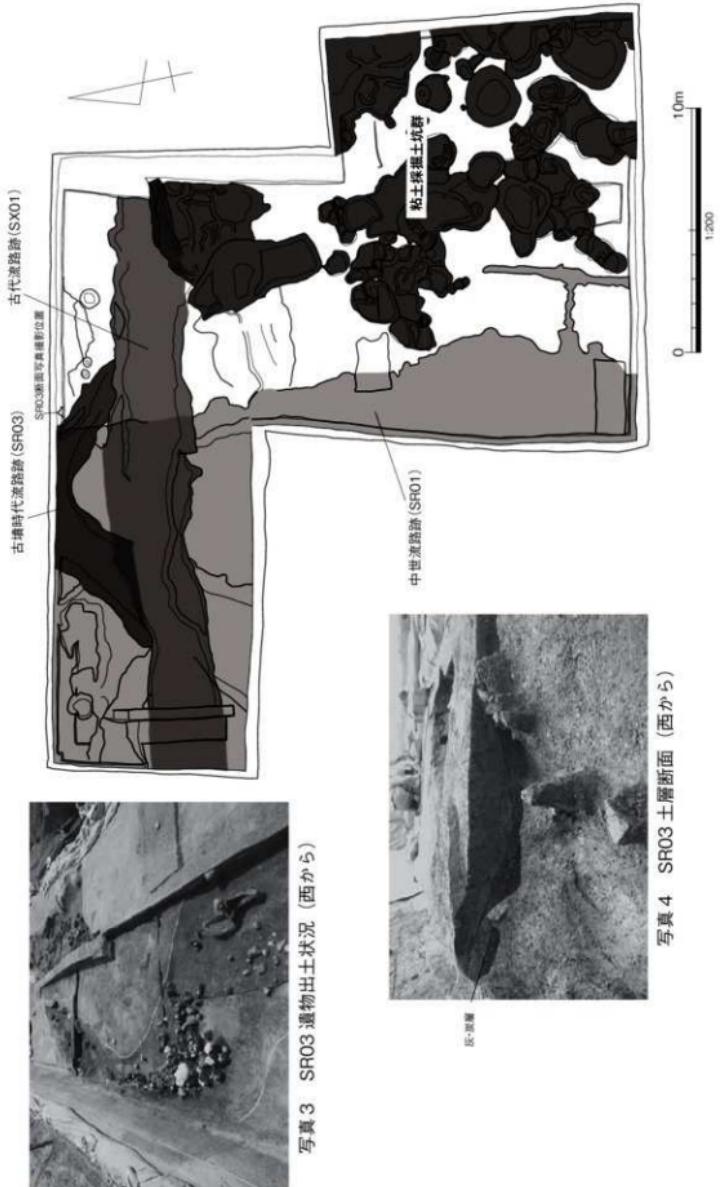
第3図 遺跡周辺地形略図



写真1 調査区北半全景（東から）



写真2 調査区東半全景（西から）



## なかといせき 仲戸遺跡

所在地 東かがわ市川東563ほか  
調査期間 平成20年7月～平成21年1月  
調査面積 3.695m<sup>2</sup>  
調査担当 山元素子 蔵本晋司 今井千佳子  
調査原因 国道11号大内白鳥バイパス建設

### 1.はじめに

仲戸遺跡は、与田川と古川に挟まれた微高地  
上に立地する。生涯学習・文化財課の試掘調査  
により、灌漑用水路跡と考えられる弥生時代の  
溝状遺構が数条検出されたため、発掘調査を実  
施することとなった。

### 2.調査の成果

調査は西からI～IV区の調査区を設定し、仲戸東遺跡と併行して行った。発掘調査の結果、縄  
文時代の河川跡、弥生時代の灌漑用水路跡、古代の溝状遺構が検出された。

縄文時代の河川跡は概ね与田川と同方向を流れしており、晩期の河川跡が2条、後期のものが3  
条検出された。いずれも遺物量はさほど多くはないが、土器表面の磨滅は少なく、それほど遠い  
場所からの流れ込みではないと考えられる。II区SR03北半部の川底ではクヌギの木株が見つかり、  
その周辺からは種子も多量に出土した。当時の植生を知る上で貴重な資料である。

IV区で検出された弥生時代前期の灌漑用水路跡は幅2.1～2.4m、深さ50～70cmを測り、南  
東方向から調査区南東隅付近で北西方向へ屈曲する。この溝状遺構から分岐した溝状遺構が随所  
に見られることから、この溝状遺構から両側へ水を引いていた様子が窺える。II区では弥生時代  
後期の灌漑用水路跡と考えられる溝状遺構が2条検出された。概ね北東方向へ向くもので、幅1.8  
～3.0m、深さ30～56cmを測る。これらはいずれもその規模から幹線水路としての機能を果た  
したと考えられる。

IV区で検出されたSD05は、これまでの遺構とは異なり、現在の周辺の地割と同方向の溝状遺  
構である。埋土中からは古代と考えられる須恵器等が出土しており、周辺の地割の成立時期を示  
す資料となる。

12月6日には仲戸東遺跡の成果も含め、誉水中筋遺跡と合同で現地説明会を実施した。小雪の  
ちらつく寒さの中、多数の参加者が熱心に担当者の説明に耳を傾け、出土品や発掘現場を見学した。



第5図 遺跡位置図 (1/25,000)

写真 7 縄文時代の河川跡と弥生時代前期の用水路跡



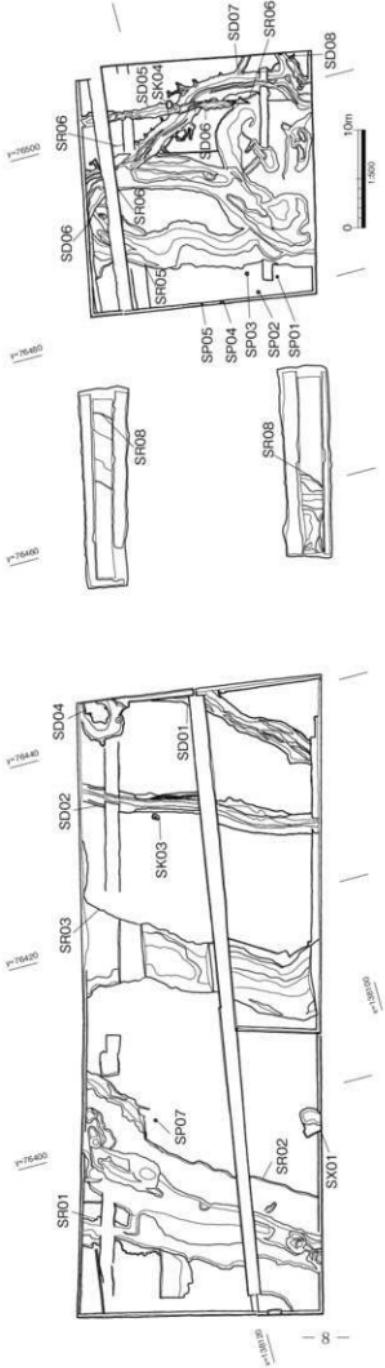
写真 6 縄文時代の木様



写真 5 縄文時代の河川跡から土器が出土した様子



第6図 仲戸遺跡遺構配置図 (1/500)



# よみずなかすじいせき 誉水中筋遺跡

所在地 東かがわ市中筋

調査期間 平成20年9月～平成21年3月

調査面積 4.459m<sup>2</sup>

調査担当 山下平重、森下友子、山元素子、  
　　藏本晋司、東原輝明、今井千佳子

調査原因 国道11号大内白鳥バイパス建設

## 1. はじめに

当遺跡は、丘陵裾の平地に所在する。現状は水田及び畑地である。平成19・20年度の生涯学習・文化財課の試掘調査では、中世の遺構が検出されていた。

## 2. 調査の概要

主な遺構の所属時期は、平安時代末期から鎌倉時代で、掘立柱建物跡、溝状遺構、井戸等を検出した。掘立柱建物跡は、調査区の中央やや西に集中する。調査区中央には丘陵裾東側に沿うように流れる中世の大型の溝状遺構があるが、これより新しい中世の掘立柱建物跡や溝状遺構もあり、中世でもいくつかの時期の遺構が重複している。また調査区東半では、注目できるものとして、中国産青磁碗、白磁小壺、和鏡（桜花双鳥鏡）が土坑状の落ち込みから出土し、石製の塔の一部と考えられるものが方形周溝状遺構から出土する等、宗教に関連すると考えられる遺構が存在した。また、県内でこれまでに調査された中世の遺跡と比較して、中国産陶磁器及び和泉産瓦器碗が多量に出土していることは、海岸の港に近い遺跡の特徴と考えられる。

中世以前の遺構として、溝状遺構及び掘立柱建物跡がある。掘立柱建物跡は、時期は明確ではないが、中世の掘立柱建物跡とは主軸方向が異なり、より明確な規格性を持つ。また、調査区の一部では、遺構との関係は不明確であるが、石製有孔円盤や小玉が集中して出土した。

中世を主体とする遺構面の下は分厚い砂層で、河川による堆積と考えられる。調査区東半では西から東へ堆積が進み、調査区西半では北から南へ堆積が進んでいる。河川跡は調査区南の丘陵裾を流れ、調査区中央の丘陵から北へ張り出した尾根端部では北へ蛇行していたと考えられる。次第に北から丘陵裾へ向って埋没が進み、平安時代末期までには完全に埋没したものと考えられる。砂層からは、縄文時代晚期の突帯文土器から古墳時代終末期までの土器が出土した。



第7図 遺跡位置図 (1/25,000)



写真8 遺構西半分 全景（東から）



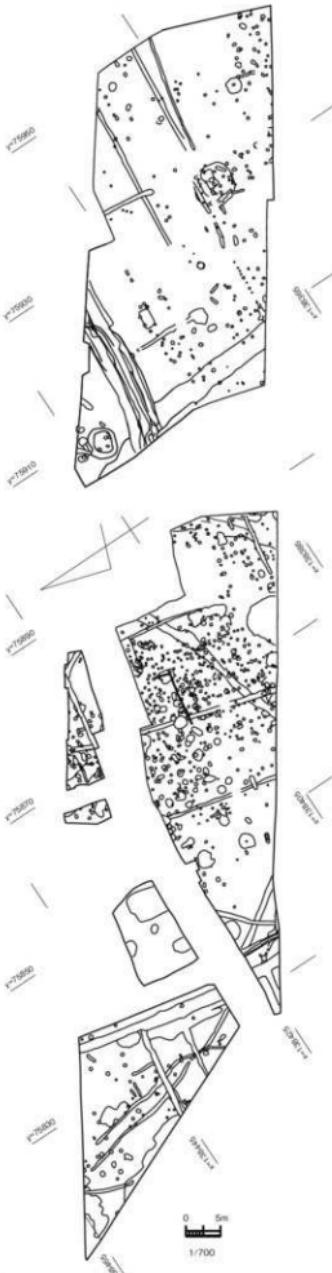
写真9 中世建物群（南から）



写真 10 和鏡出土状況



写真 11 和鏡 X線写真



第8図 蒙水中筋遺跡構配図

## 2 県事業に伴う発掘調査事業

県道・県管理国道関係の発掘調査事業では、県土木部が行う道路改良工事等に伴う発掘調査を太田上町志度線、国道438号関係の2遺跡で実施した。また、県教育委員会関係の発掘調査事業では、善通寺養護学校移転に伴う旧練兵場遺跡の発掘調査を実施した。

県道太田上町志度線では、多肥平塚遺跡の調査を平成20年4月から6月までの期間で実施した。この遺跡では弥生時代の河川跡、古代の大型灌漑水路跡、中世の三面庇の建物跡や数棟の小規模掘立柱建物跡で構成される中世の屋敷地等を検出した。国道438号では、東坂元秋常遺跡の調査を平成20年4月から8月までの期間で実施した。この遺跡では弥生時代中期の溝状遺構や土坑、古代～中世の掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑等の集落跡を検出した。なお、中世の遺構からは、青銅製品や鉄製品を鋳造していたことが考えられる土坑を検出した。

旧練兵場遺跡の調査は、当センターでは平成13年度から実施しており、多大な調査成果をあげている。今年度の調査では平成20年4月から21年の3月までの期間で、2班が調査に当った。遺構については、これまでの調査成果と同様、弥生時代中期の大型掘立柱建物跡やそれ以降の堅穴住居跡群が密集し、住居跡だけでも100棟以上検出した。特に注目できる遺構では、北部九州系の弥生時代後期前半の堅穴住居跡と、住居から出土した同地域の弥生土器があげられる。北部九州の集団がこの遺跡に移り住んだものと考えられ、同地域との交流を検討するうえで大変貴重な成果になった。また、出土遺物では船載の後漢鏡が出土し、大きな注目を集めた。これらの点より、この遺跡が丸亀平野西部的一大拠点集落であることが、より鮮明になったと言える。

遺跡名	調査面積	調査期間	遺構	遺物
多肥平塚遺跡	1,955m <sup>2</sup>	平20.4～平20.6	掘立柱建物跡、溝状遺構、河川跡	弥生土器、土師器、須恵器、石器
東坂元秋常遺跡	2,210m <sup>2</sup>	平20.4～平20.8	掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器
旧練兵場遺跡	2,640m <sup>2</sup>	平20.4～平21.3	堅穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、土器棺墓	弥生土器、土師器、須恵器、石器、銅鑓、銅鏡、玉

第4表 平成20年度 県事業に伴う発掘調査事業一覧

## たひひらつかいせき 多肥平塚遺跡

所在地 高松市多肥上町 109 ほか

調査期間 平成 20 年 4 月～6 月

調査面積 1,995m<sup>2</sup>

調査担当 山元素子 蔵本晋司 今井千佳子

調査原因 県道太田上町志度線道路改良  
(太田工区)

### 1. はじめに

多肥平塚遺跡は、高松平野中央部の緩扁状地上に立地する遺跡である。平成 19 年度に I 区の調査を実施し、今年度は I 区西側の II～IV 区の調査を実施した。

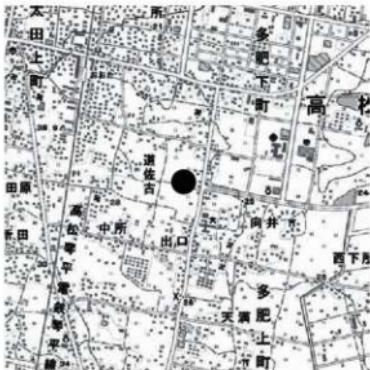
### 2. 調査の概要

調査の結果、II 区において弥生時代の河川跡 (SR01) とその埋没後に建てられた中世の三面庇建物跡 (SB01) を、III 区においては数棟の小規模掘立柱建物跡 (SB02～04) で構成される中世の屋敷地を、IV 区においては弥生時代の河川跡と古代の大型灌漑水路跡をそれぞれ検出した。

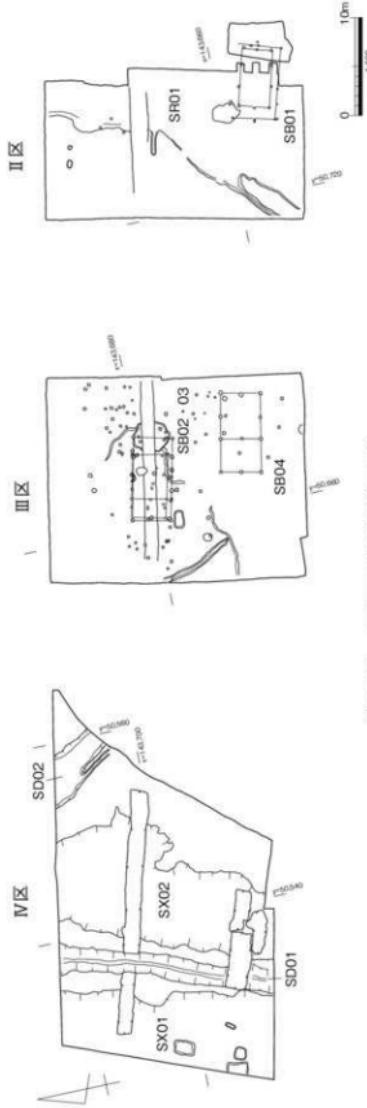
II・III 区において検出した中世の建物群は、出土遺物より 13 世紀後半と推定される。両調査区は約 45 m 離れ、その間は試掘調査の結果、遺構が存在しないと判断されている。したがって、両調査区で検出した建物群の関係について、同時並存した別区画の屋敷地が存在したか、微妙な時期差を伴うのか等の検討が、今後の課題である。

IV 区において検出した古代の灌漑用水路跡 (SD01) は、弥生時代に埋没した旧河道 B (高橋 1992) の流路跡 (SX01・02) 上、つまり低地部に開削されており (第 13・14 図)、排水路として利用されたと考えるのが妥当であろう。また SD02 は、SD01 へ排水する支線水路跡と位置付けられる。開削時期については出土遺物の検討を必要とするが、9～10 世紀には埋没過程にあったことが考えられる。

参考文献 高橋学 1992 「高松平野の地形環境－弘福寺領山田郡田図比定地付近の微地形環境を中心にして」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会



第 9 図 遺跡位置図 (1/25,000)



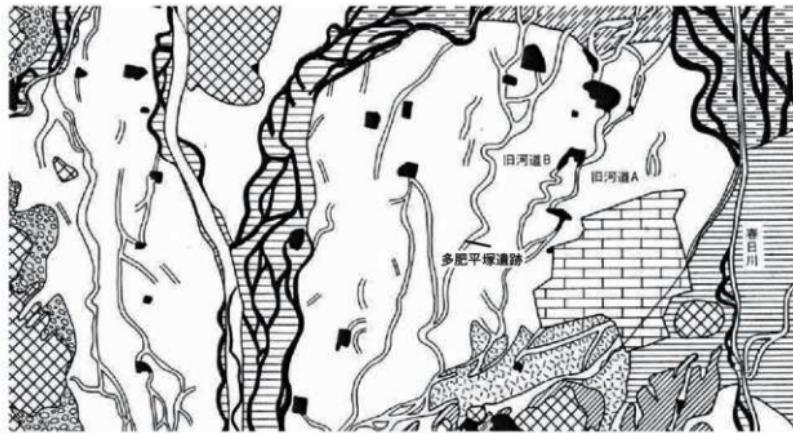
第10図 多肥平塙遺跡構造配置図



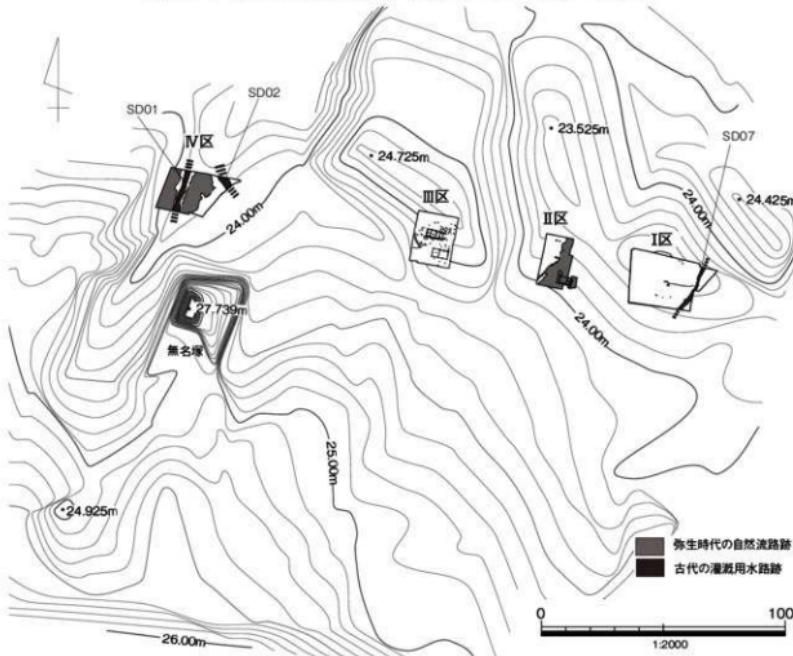
写真13 III区北半部全景(南から)



写真12 IV区 SD01全景(南から)



第11図 高松平野地形分類図（高橋 1992 より転載一部改変）



(遺跡周辺の現地表面の標高を測量し、そのデータを CUBIC 社製描画ソフト「道構君 cubic」により等高線を作成し、若干の修正を行い作図した。)

第12図 遺跡周辺 10cm等高線図

## ひがしさかもとあきつねいせき 東坂元秋常遺跡

所在地 丸亀市飯山町東坂元

調査期間 平成 20 年 4 月～8 月

調査面積 2,210m<sup>2</sup>

調査担当 山下平重 森下友子 東原輝明

調査原因 国道 438 号道路改築（飯山 I 区）

### 1. はじめに

東坂元秋常遺跡は飯野山の南東麓に位置する。本遺跡は平成 17・19 年にも調査を行っており、今回の調査は 3 回目に当たる。今年度の調査区の北東部に当たる平成 17 年度調査区の調査成果は『国道 438 号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 1 冊 東坂元秋常遺跡 I』（平成 20 年 2 月発行）として刊行されている。

### 2. 調査の成果

東坂元秋常遺跡では、弥生時代中期の溝状遺構や土坑、平安時代から室町時代の掘立柱建物跡、柱穴跡・溝状遺構・土坑等が検出された。

弥生時代中期の溝状遺構はコの字状に巡る。幅 1.2 m、深さ 0.4 m、コの字の 1 辺の長さは 6～7 m である。方形周溝墓の可能性も考えられるが、溝状遺構の内側に主体部の痕跡は確認できなかつた。

平安時代の掘立柱建物跡は 2 棟検出された。桁行 2 間以上（3.3 m 以上）、梁間 2 間（3.3 m）の建物と、桁行 4 間（7.5 m）× 梁間 3 間（4.5 m）の建物が検出された。

鎌倉時代の土坑（直径 1.4 m、深さ 0.1 m）からは、土師器小皿や中国産青磁碗の破片とともに焼けた石、炭、青銅の屑、鉄屑等の鉄物関係の廃棄物が出土した。炉跡は検出されず、鋳型も出土しなかつたが、この遺跡の周辺では青銅・鉄製品を鋳造していたことがわかつた。

今回の調査では、前回の調査と同様、弥生時代、平安時代、室町時代の遺構が検出された。弥生時代の遺構は部分的で、平安時代から室町時代の遺構は遺跡全体に広がっていることから、この付近では平安時代から室町時代にかけて大集落が広がっていたことがわかつた。



第 13 図 遺跡位置図 (1/25,000)



写真 14 弥生時代の溝状遺構（北東から）



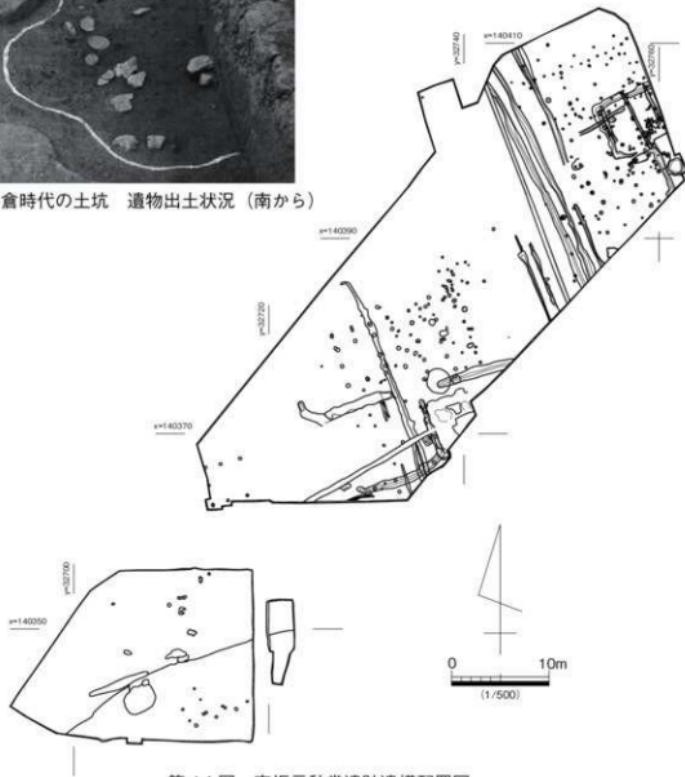
写真 15 弥生時代の土坑 土器出土状況（東から）



写真 17 平安時代の掘立柱建物跡（南から）



写真 16 鎌倉時代の土坑 遺物出土状況（南から）



第 14 図 東坂元秋常遺跡遺構配置図

# きゅうれんべいじょういせき 旧練兵場遺跡

所在地 善通寺市仙遊町

調査期間 平成20年4月～平成21年3月

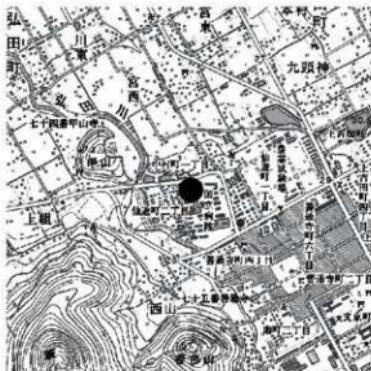
調査面積 2,640m<sup>2</sup>

調査担当 西村尋文 信里芳紀 長井博志

木野戸直 藤井菜穂子 林悠香

木全加珠美

調査原因 善通寺養護学校移転



第15図 遺跡位置図 (1/25,000)

## 1. 調査の成果

旧練兵場遺跡は、縄文時代から中世に至るまでの複合遺跡である。今年度の調査地は、独立行政法人病院機構善通寺病院内の北西部に位置する。調査地の地形は扇状地の扇央付近に当り、調査区中央部の遺構検出面では、扇状地を形成する砂礫層が南東から北西に向かって帯状に検出されている。また、現地表から遺構検出面までの深度は約0.3～0.4mと浅く、竪穴住居跡の壁高が低いことから、遺構検出面は後世に極度の削平を受けていると考えられる。以下、時代毎に主要遺構の概略を記す。

## 2. 縄文時代

明確な遺構は認められないものの、2A区の弥生時代の遺構検出面を構成する明黄褐色粘土層から結晶片岩製石棒が1点、弥生時代の遺構に混入して縄文後期土器片や黒曜石の石片等の遺物が数点出土している。明確な遺構面が形成されていないことから、本段階は扇状地を構成する堆積が頻繁に行われていた環境が想定できる。

## 3. 弥生時代中期

4A区において弥生中期前半の柱穴跡が数基認められるものの、安定して遺構が形成されるのは、弥生中期中頃以降である。主な遺構として、竪穴住居跡11棟、掘立柱建物跡16棟、貯蔵穴跡2基、溝跡3条等がある。3A区南側付近では、中期中頃の竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が集中して確認された。竪穴住居跡は直径約4mの円形で4本支柱の柱構造をもつものと、直径約6mで4から6本の柱構造をもつものがセットになる。掘立柱建物跡は、柱穴跡の平面形が隅丸方形で、梁間1間の構造を基本とする点で共通し、桁行の柱間数によって床面積が増減する。掘立柱建物跡は一箇所に集中せず、竪穴住居跡に近接して構築されている。

4A区では、南東方向から北西方向に直線的に延びる溝状遺構(SD4471a)が検出されている。流

下方向から見て、平成8・9年度の発掘調査で確認されている調査区の河川跡から取水する灌漑水路跡と見られる。

#### 4. 弥生時代後期から終末期

主な遺構として、堅穴住居跡75棟、掘立柱建物跡11棟等がある。また、堅穴住居跡の床面や炉跡を中心に銅鏡6点、ガラス小玉43点、ガラス製管玉1点、水晶製玉未完成品1点、碧玉製管玉5点、蛇紋岩製勾玉3点等の貴重品類が出土した。これらの遺物が集中する遺構は見られず、後期初頭から終末期の遺構から分散した状態で出土した。

注目される居住遺構として1A区SH1020aがある。SH1020aは長方形の平面プランと2本主柱の柱構造をもち、片側にベット状遺構を造り出す。この構造は、北部九州地域の弥生時代後期に多く見られる住居形態に酷似する。また、住居東壁際の付設土坑からは、本地域の弥生後期前半の土器とともに、豊前地域から搬入された同時期の広口壺が出土した。このように、九州系の住居形態と搬入土器がセットで確認されたことから、その地域からの人の移動や、土器の併行関係を推定する良好な資料となる。

後期後半から終末期の堅穴住居跡には、多角形の平面形をもつものが多く確認されており、特に4A区に集中する。また、4A区西側で実施された平成5年度の調査区においても多角形の堅穴住居跡が多く確認されており、遺跡内でも堅穴住居跡が集中するエリアであった可能性が高い。大規模集落内の居住単位を示すものとして注目できる。

#### 5. 鏡について

3B区SD3151bから舶載青銅鏡が1点出土している。SD3151bは、7世紀末葉から8世紀初頭に埋没した溝状遺構であり、鏡は弥生時代の遺構からの混入品と考えられる。

鏡は、内区から外区の境にかけての長さ2.2cm幅1.5cmの小片で、内区に図文と見られる細線、圓線間の銘帶と櫛歯文帯が確認できる。破断面に研磨痕は確認できない。文様と銘帶の構成から、細線式方格規矩鏡か細線式獸帶鏡の破片と見られる。面径は約15cmに復元され、銘は「鏡」と読むことができ、その字体から後漢前期から中期にかけての鏡の破片であると考えられる。廃棄された詳細な年代については明らかにできないが、過年度の調査を参考にすれば弥生時代終末期に帰属する可能性が高い。

本例を加えて、旧練兵場遺跡では4点の舶載鏡片、2点の仿製鏡片が出土していることになる。稻木遺跡や甲山北遺跡等周辺の遺跡を含めると、旧練兵場遺跡を中心とする丸亀平野南西部に集中する状況が一段と明確になった。

#### 5. 古墳時代

弥生時代終末期の堅穴住居跡群が廃絶した後は、居住遺構が極端に減少し、遺構の主体は溝状遺構となる。1A区(SD1030a・1054a)、1C区(SD1053c)、3区(SD3626a・3153b)、4A区(SD4028a)で検出された溝状遺構は過年度調査区を含めて検討すると、3区南側から3区中央部の微高地を

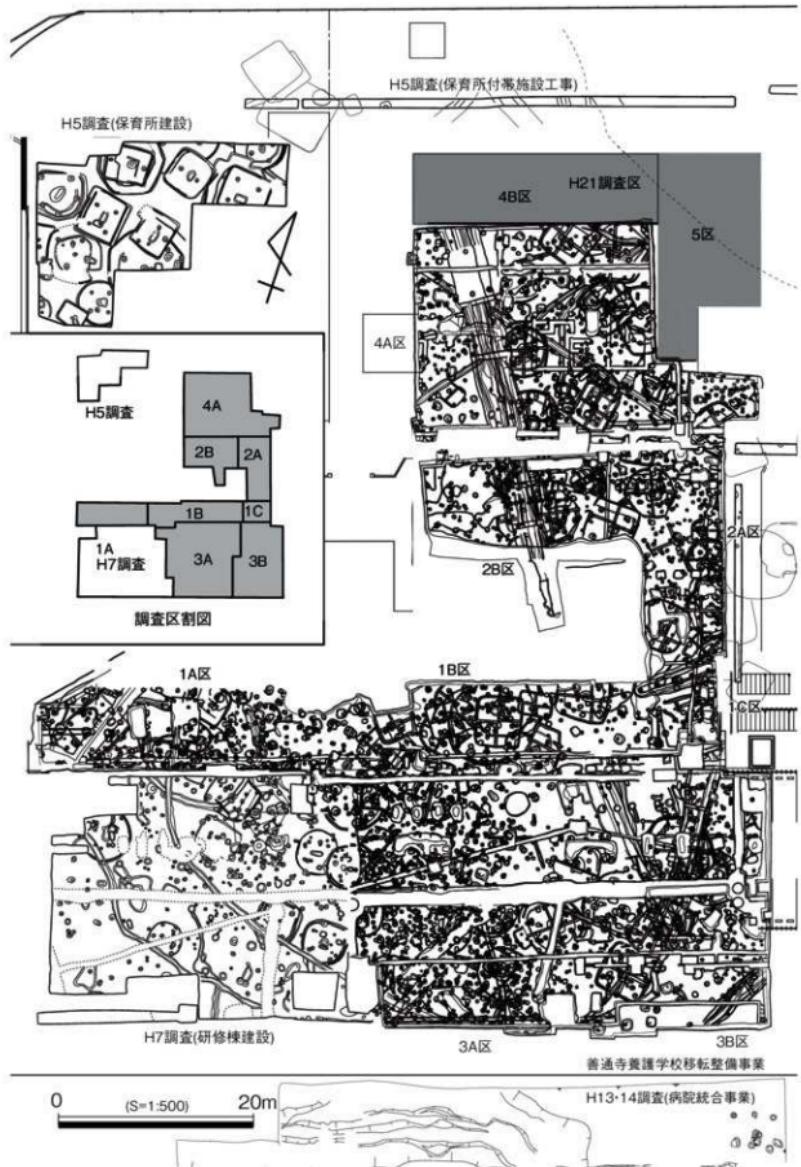
迂回する形で北西及び北東方向へ分岐して流下している。出土した土器片は細片のものが多く時期決定に困難を伴うが、弥生時代終末期の遺構を壊して開削され、古代の遺構に壊されていることや、須恵器片を伴わないこと等から、古墳時代前半期の所産と判断できる。3A区を中心にして掘立柱建物跡が2棟確認できるが、須恵器片を伴うことから、古墳時代後半期の遺構と見られる。また、建物復元に至ってない柱穴跡にも須恵器片を伴うものが散見されることから、今後の整理作業に進捗によって当該期の建物数は更に増加する可能性が高い。

#### 6. 古代以降

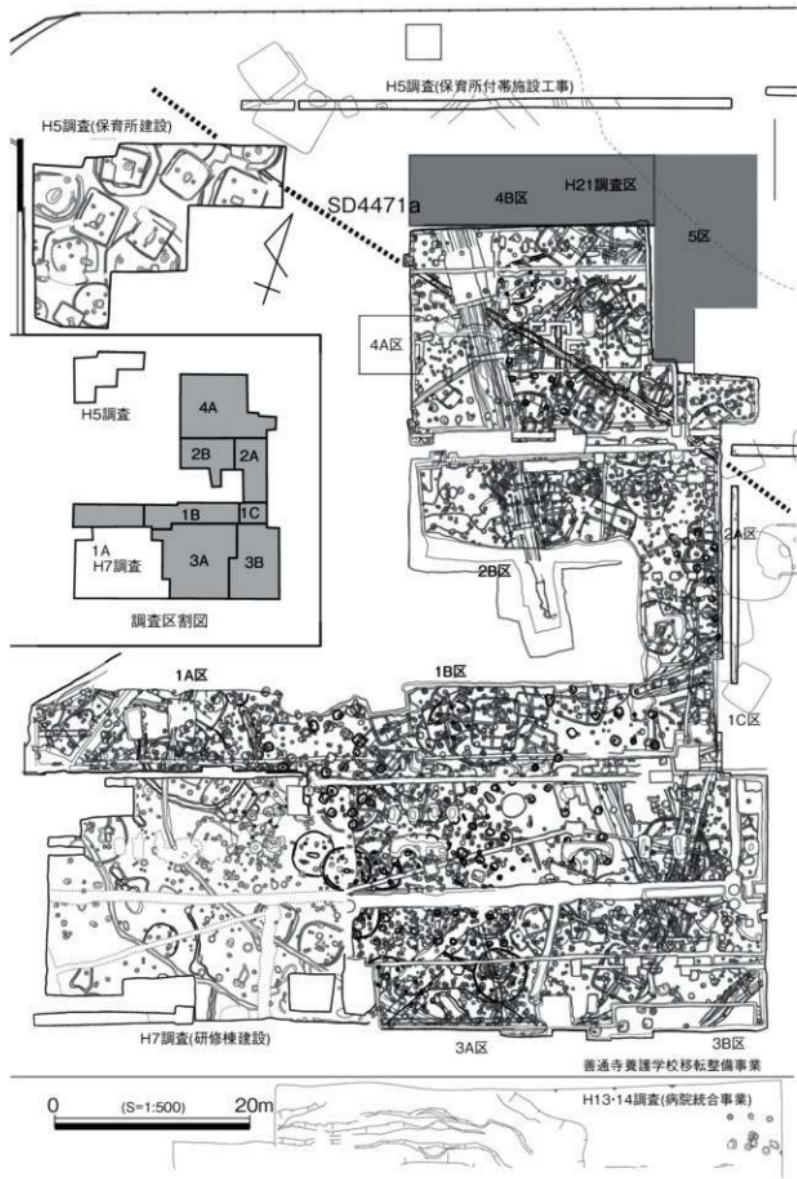
土地区画に関係すると考えられる溝状遺構4条と掘立柱建物跡が8棟確認されている。溝状遺構は、真北方向の3B区SD3151bが7世紀末期から8世紀初頭に埋没した後、現状の条里型地割に合致するSD4002aに変化している。真北方向を示す溝状遺構は、過年度調査でも数箇所において確認されており、条里型地割に先行する地割溝跡であると考えられる。現在の条里型地割に合致するSD4002aは、数回の改修を受けたようで、5回程度の掘り直しが観察された。最下層及び下層は8世紀から10世紀の遺物が見られ、中層から上層は13世紀の遺物を含む。最上層は近世から近現代までの遺物を含んでいる。開削時期については、最下層から下層の遺物に混在した様相が見られるものの、現時点では8世紀を想定しておきたい。

#### 7. まとめ

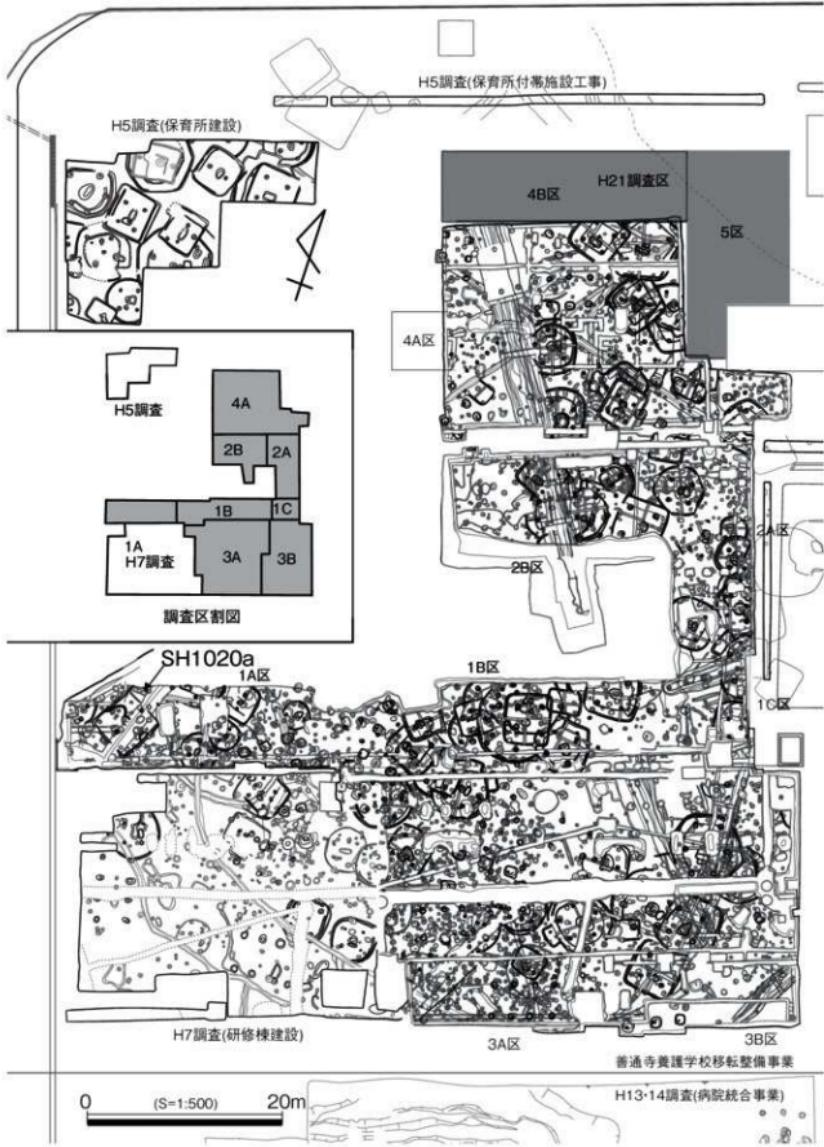
過年度の調査と同様に、多くの竪穴住居跡等の居住遺構を初め、他地域との交流を示す九州系住居や、政治性を示す漢鏡等の大規模集落の構造と機能を示す多くの成果が得られた。今後の整理作業を通じて、遺構の詳細な時期決定や建物復元を行い、過年度の調査成果を含めた旧練兵場遺跡内での位置付け等を行う必要がある。



第16図 遺構全体図



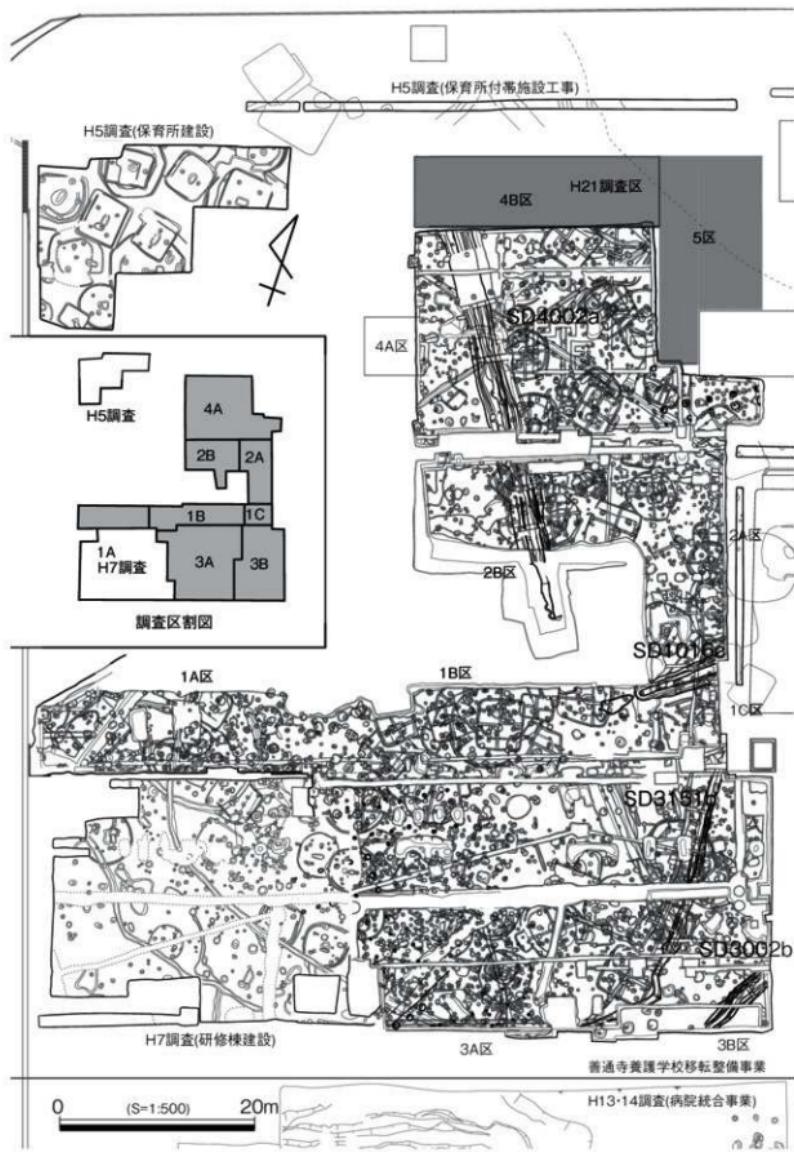
第 17 図 遺構配置図（弥生時代中期）



第18図 遺構配置図（弥生時代後期～終末期）



第19図 遺構配置図（古墳時代前期～後期）



第 20 図 遺構配置図（古墳時代末期～古代以降）



写真 18 3A 区 弥生時代中期 SB3914a 完掘状況  
(西から)



写真 19 3A 区 完掘状況 (北から)



写真 20 4A 区 弥生時代後期  
竪穴住居跡群 (南から)



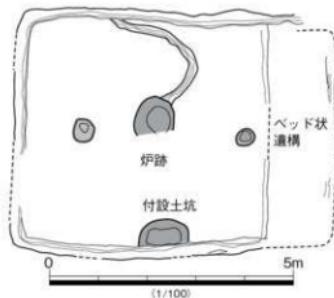
写真 21 4A 区 竪穴住居跡群完掘状況(垂直)



写真 22 SH1020a 出土  
九州系土器  
(弥生時代後期前半)



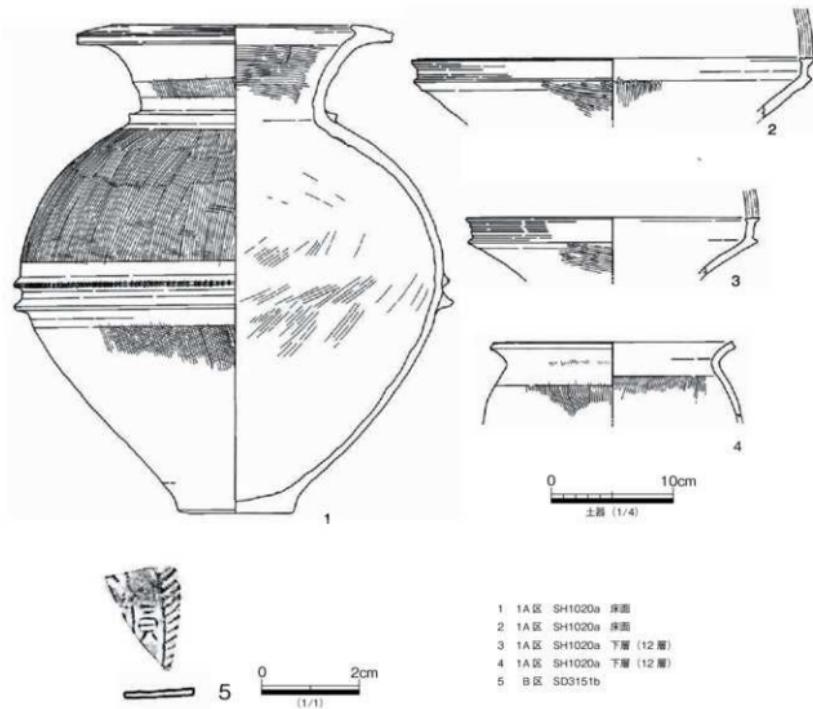
写真 23 3B 区  
SD3151b 出土漢鏡



第21図 1A区 SH1020a  
(九州系住居) 平面



写真24 1A区 SH1020a (九州系住居) 北から



漢鏡実測図 S=1:1

第22図 旧練兵場遺跡出土遺物実測図

### 3 整理・報告事業

整理事業の内訳は、国事業1件（1遺跡）、県事業5件（5遺跡）である。

国事業は、独立行政法人国立病院機構善通寺病院から、善通寺病院統合事業に係る整理を受託して行った。

県事業は、土木部所管の県道及び都市計画道路建設、並びに河川改修事業に係る整理を行った。

報告書は国事業で1冊（1遺跡）、県事業で6冊（8遺跡）を刊行した。

区分	事業	遺跡名	期間
国事業	善通寺病院	旧練兵場遺跡	平成20年4月～平成21年3月
県事業	県道丸亀詫間農浜線	高屋条里遺跡	平成20年11月～平成21年12月
	県道多度津丸亀線	津森位遺跡	平成21年1月～平成21年3月
	都市計画道路福岡三谷線	木太中村遺跡	平成20年7月～平成20年8月
	都市計画道路富士見町線他1線	文京町二丁目西遺跡	平成20年9月～平成20年10月
	春日川	大灘遺跡	平成20年4月～平成20年6月

第5表 整理事業一覧

区分	書名	遺跡名
国事業	善通寺病院看護学校建設及び統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊	旧練兵場遺跡
県事業	国道438号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊	東坂元三ノ池遺跡
	県道多度津丸亀線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	庄八尺遺跡
	県道円座香南線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊	本郷遺跡
	都市計画道路福岡三谷線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 都市計画道路富士見町線他1線道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	川原遺跡
		木太中村遺跡
		文京町二丁目西遺跡
	春日川河川激甚災害対策特別緊急工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	大灘遺跡
	高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊	鹿伏・中所遺跡

第6表 刊行発掘調査報告書一覧

### III 普及・啓発事業

本年度も、昨年同様、埋蔵文化財センター展示室での常設展示・速報展示、施設外でのふるさと展示等の企画展、現地説明会の開催、現場見学の受け入れ、講師の派遣、発掘調査体験学習の実施、文化ボランティア活動の推進、資料の貸出・利用への対応、広報誌の刊行、研究紀要の刊行、新聞記事の連載、職場体験学習の受け入れ等を行ったほか、昨年度に引き続き坂出市立府中小学校との連携学習や、夏季休業中の社会科の課題に助言する「夏休み自由研究サポートデスク」事業を実施した。

以下、主な事業について報告する。

#### 1 展示

##### (1) 香川県埋蔵文化財センターの展示

第1展示室は、「遺跡・遺物から見た香川の歴史」(常設)と題して、旧石器時代から近世までの香川県の通史を概観できる内容としている。

第2展示室は、整理報告が終了した遺跡の成果を速報的に展示しており、今年度は第7表の展示を行った。

1年間の見学者は3,203人であり、当初の目標の2,500人を大きく突破した。例年、入館者数が落ち込む6月や9月も100人以上の入館者があり、地道な普及啓発活動がようやく実を結び始めたことを示している。しかし、学校単位での見学依頼がわずかながら減少したこと等、引き続き、春や秋の遠足シーズンの利用促進を目的としてする学校に対する周知活動を強化する必要を感じた。

展示室においては、団体はもちろん個人の場合も見学者の希望により、随時職員による展示解説を行った。

会期	テーマ
平成20年5月1日～7月4日	いにしえ人の国際交流～尾崎西遺跡（さぬき市）～ 奥白方に眠る古代遺跡
平成20年7月10日～10月3日	～奥白方中落遺跡・奥白方南原遺跡（多度津町）～
平成20年10月9日～12月26日	飯野山山麓に広がる古代遺跡 ～東坂元三ノ池遺跡・東坂元秋常遺跡（丸龜市）～
平成21年1月5日～4月24日	知られざる善通寺北部の遺跡群～小塚・稻木北・永井北遺跡（多度津町・善通寺市）～

第7表 速報展一覧

年月日			テ　マ									
平成20年5月31日			いにしえ人の国際交流～尾崎西遺跡（さぬき市）～									
平成20年9月6日			奥白方に眠る古代遺跡～奥白方中落遺跡・奥白方南原遺跡（多度津町）～									

第8表 速報展展示解説会一覧

一般			団体										合計
大人	小人	計	団体数					構成員数					合計
			一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	
1,852	256	2,108	17	1	9	1	28	546	9	504	36	1,095	3,203

第9表 展示室入館者数



写真 25 第1展示室



写真 26 第2展示室



写真 27 展示解説会



写真 28 展示解説会 (発掘へんろ)

月 日	団 体 名	月 日	団 体 名
4月 30日	坂出市立府中小学校	8月 29日	コーブかがわ南部エリア
5月 1日	綾川町立竜宮小学校	9月 24日	高松市立香東中学校
5月 16日	坂出市立櫃石小学校	9月 27日	わくわく！さかいでっ子探けん隊
5月 19日	府中町石井地区仲間作りの会	10月 2日	はじめまして香川の会
5月 23日	坂出市立東部小学校	10月 8日	香川県立西部養護学校
5月 27日	坂出市立府中幼稚園	10月 15日	大野原中央公民館郷土史講座
6月 28日	香川県立ミュージアム友の会	10月 20日	東かがわ市立福栄小学校
7月 1日	デイサービスセンター坂出	11月 5日	さぬき市立津田小学校
7月 21日	国分寺東大谷子ども会	11月 6日	善通寺市立西部小学校
7月 23日	デイサービスセンター坂出	11月 13日	ひすい20の会
7月 25日	坂出市親子市政バス	1月 24日	善通寺市東部地区連合自治会
7月 27日	国分寺クローバー子ども会	2月 2日	まきば児童センター小学生
8月 24日	多度津ハイカーズクラブ	2月 11日	香川まち歩き観光連絡協議会
8月 24日	國學院大學大学院古代史セミ	2月 19日	イキイキときめき大学竜川校

第 10 表 展示室入館団体一覧

## (2) 香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

埋蔵文化財の保護意識の啓発を積極的に進めるために、県内各地や県外の施設で展示を行った。

5年目となる四国内の5つの埋蔵文化財センターが共同で展示を行う「四国地区埋蔵文化財センター巡回展 発掘へんろ～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～」は、今年度も順調に巡回展示を行うことができた。今回は「遺跡からみる国際交流」というテーマを掲げ、主として弥生時代から戦国時代に至るまでの国際交流を象徴する資料を展示した。香川会場は昨年度に続き、高松市歴史資料館を会場として開催したが、開催期間がやや短かったため、昨年度よりも入館者数が減少する結果となった。

この他、県内での発掘調査によって出土した資料を地元で公開する「ふるさと展示」を各地で開催した。この中には、埋蔵文化財センターが各地で調査した遺物の里帰り展示や、各地の特色ある文化を示す遺物とそれに関連する埋蔵文化財センター所蔵品を共同展示するテーマ展示、市町合併に伴う展示会等があるが、ふるさとの祖先が残した遺物に触れるることは地域に根ざす文化を再発見するものであり、地元ゆかりの埋蔵文化財に久しぶりに親しむことができるところから、好評を博した。

さらに、昨年度に引き続き、秋の「森の文化祭」への出展も行い、主に埋蔵文化財センターの

業務を紹介し、森と人間とのどのように関わってきたかを考古資料から考える展示を行い、多くの参加者でにぎわった。

テーマ		会場	会期	観覧者数
ふるさと展示	観音寺の後期古墳	観音寺市中央図書館	平成20年9月5日～9月21日	517
	高松平野南部の遺跡 ～岡清水遺跡・竹元遺跡～	高松市香南歴史民俗郷土館	平成20年9月13日～10月13日	661
	2008 まなとビア 第5次さかいで古代探検隊 ～坂出市内出土のはにわ～	坂出市立郷土資料館	平成20年10月25日～11月29日	991
	東かがわ市史・考古編 ～古墳時代の東かがわ～	東かがわ市歴史民俗資料館	平成20年12月13日～平成21年2月15日	311
	第5次さかいで古代探検隊～ 坂出市内出土のはにわ	坂出市立塩業資料館	平成21年2月14日～3月24日	82
	シリーズ学校の遺跡① ～多肥松林遺跡～	県立文書館	平成21年2月10日～3月8日	681
巡回展	四国地区埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろ ～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～」	松山市考古館	平成20年4月19日～7月13日	3,390
		高知県埋蔵文化財センター	平成20年8月1日～10月31日	1,224
		高松市歴史資料館	平成21年1月10日～2月8日	620
		徳島県立埋蔵文化財総合センター	平成21年2月13日～3月22日	1,127
その他の展示	動物園跡地理蔵文化財展	栗林公園讃岐民芸館	平成20年4月1日～平成21年3月31日	55,945
	第14回 森の文化祭	公渕森林公園芝生広場	平成20年10月26日	400
	夏休み子どもミュージアム はにわ～坂出市別宮北古墳群 から出土した形象埴輪～	県立文書館	平成20年7月15日～9月21日	3,644
合 計				69,591

第11表 センター外展示一覧



写真 29 発掘体験学習



写真 30 小学校の遠足風景



写真 31 森の文化祭



写真 32 体験学習（土器焼きとまち歩き）



写真 33 府中小との連携事業（出前事業）



写真 34 府中小との連携事業（土器炊飯）

## 2 現地説明会・現場見学

### (1) 現地説明会

発掘調査の成果を速やかに、広く一般の方々に周知するために、3遺跡において4回の現地説明会を実施した。このうち、丸亀市東坂元秋常遺跡では、「丸亀文化財の日」とタイアップして、開催したこともあり、多くの方々に見学いただいた。また、善通寺市旧練兵場遺跡での現地説明会には、100名を超える見学者があり、改めて現地説明会を開催することの必要性を実感した。

### (2) 地元説明会・現場見学

発掘調査現場の公開は、臨場感が見学者に大きな感銘を与える点で、文化財保護意識の向上に大きいに寄与する。そこで、発掘調査中に、地元住民を対象とした現地見学会を多肥平塚遺跡において開催したところ、多くの見学者が訪れ、地域の歴史についての関心が高いことがうかがわれた。現地説明会および地元説明会・現場見学についての実績は第12・13表のとおりである。

内 容	年 月 日	対 象	見学者数
多肥平塚遺跡現地見学会	平成20年6月21日	地元住民	80
東坂元秋常遺跡（丸亀文化財の日）	平成20年7月26日	一般	100
旧練兵場遺跡現地説明会	平成20年11月8日	一般	100
誉水中筋遺跡現地説明会	平成20年12月6日	一般	100
仲戸・仲戸東遺跡現地説明会	平成21年3月14日	一般	100
合 計			480

第12表 現地説明会・現地見学会一覧

年 月 日	遺 跡 名	團 体 名	人 数
平成20年6月18日	多肥平塚遺跡	高松市立多肥小学校	104
平成20年6月19日	東坂元秋常遺跡	県立飯山高校	10
平成20年12月18日	誉水中筋遺跡	東かがわ市立福栄小学校	13
合 計			127

第13表 発掘調査現場見学団体一覧

### 3 講師の派遣

従来どおり、県内の教育機関、文化財関係機関、各種研究会・団体等からの派遣依頼に応えた。内容は講演、授業、体験学習、遺跡解説等である。今年度は昨年度よりも地域のコミュニティ活動に関連した講座の依頼が多く、このような傾向は次年度以降も継続していくものと思われる。



写真35 夏休みサポートデスク



写真36 出前授業



写真37 出前授業（土器焼）

依頼者	月日	場所	内 容	対象	人数
亀阜地区 民生委員協議会	6月15日	高松市立亀阜小学校	勾玉づくり	親子	50
高松市立香南小学校 6年組PTA	7月5日	高松市立香南小学校	勾玉づくり	親子	78
高松市香南 歴史民俗郷土館	7月26日	高松市香南歴史民俗郷 土館	勾玉づくり	親子	45
NPO法人 サンサン俱楽部	7月27日	サンポート高松	勾玉づくり	親子	38
高松市 太田南コミュニティ	7月29日	太田南コミュニティ	勾玉づくり	親子	36
高松市 木太コミュニティ	7月30日	木太公民館	勾玉づくり	小学生	33
まんのう町 南学校区子ども会	7月31日	まんのう町吉野公民館	勾玉づくり	親子	28
観音寺市 大野原中央公民館	8月1日	大野原中央公民館	勾玉づくり	親子	25
高松市 香南歴史民俗郷土館	8月2日	高松市香南歴史民俗郷 土館	土器づくり	親子	44

坂出市教育委員会	8月6日	坂出市中央公民館	土器づくり	親子	60
勝賀城跡保存会 鬼無子ども会	8月7日	勝賀城跡ほか	火おこし	親子	54
坂出市 加茂校区子ども会	8月13日	加茂公民館	勾玉づくり	親子	36
さぬき市教育委員会	8月31日	雨滝山自然科学館	土笛づくり 勾玉づくり	親子	60
宇多津町 ボランティア団体	9月19日	宇多津町保健センター	ガラス玉づくり	一般	16
コープ丸亀南	10月1日	丸亀文化センター	ガラス玉づくり	一般	20
丸亀市立資料館	10月12日	丸亀市立資料館	豎拂づくり	一般	17
高松市香南 歴史民俗郷土館	10月13日	香東川河川敷運動公園	土器焼き	親子	30
坂出市教育委員会	11月8日	勤労福祉センター	はにわづくり	親子	7
三豊市文化協会 仁尾支部	11月12日 13日	仁尾町内 仁尾文化会館	まち歩き 講演会講師	会員 一般	165
坂出市子ども会 育成連絡協議会	11月24日	坂出市立金山小学校	塩づくり 石器づくり	親子	120
土庄町教育委員会	12月6日	土庄町中央公民館	ガラス玉づくり	親子	40
東かがわ市 歴史民俗資料館	1月14日	引田公民館	講演会講師	一般	20
東かがわ市 歴史民俗資料館	2月1日	東かがわ市 歴史民俗資料館	展示解説	一般	40
高松市 香南歴史民俗郷土館	2月21日	高松市香南歴史民俗郷 土館	ガラス玉づくり	一般	20
三豊市三野町公民館	3月7日	三野町公民館	アンギン編み	小学生	31
合 计					1,113

第14表 講演・講座等への講師派遣一覧

学校名	月日	場所	内容	対象	人数
高松市立国分寺 北部小学校	6月2日	国分寺北部 小学校	社会科授業	6年生	72
高松市立香東中学校	6月18日	香東中学校	総合学習講師	1年生	38
高松市立屋島小学校	6月25日	屋島小学校	製塩土器づくり	6年生	112
高松市立香東中学校	6月25日	香東中学校	土器づくり	1年生	38

坂出市立東部小学校	7月8日	東部小学校	総合学習講師	5年生	78
坂出市立櫃石小学校	7月10日	櫃石小学校	勾玉づくり	全学年	18
高松市立前田小学校	7月16日	前田小学校	土器づくり	6年生	33
高松市立多肥小学校	7月16日	多肥小学校	総合学習講師	5年生	38
高松市立屋島小学校	7月22日	屋島小学校	古代体験	全学年	269
高松市立香東中学校	9月3日	香東中学校	土器焼き	1年生	38
高松市立屋島小学校	9月9日	屋島小学校	土器焼き	6年生	112
高松市立前田小学校	10月22日	前田小学校	土器焼き	6年生	34
高松市立 屋島西小学校	10月23日	屋島西小学校	製塙土器づくり	6年生	117
善通寺市立 西部小学校	1月15日	西部小学校	土器焼き	6年生	24
高松市立 屋島西小学校	3月2日	屋島西小学校	土器焼き	6年生	117
合 計					1,138

第15表 学校への講師派遣一覧

#### 4 坂出市立府中小学校との連携事業（「よろこび学習」）

坂出市立府中小学校との連携事業として、一年間の総合学習の時間を利用した活動を実施した。4月の展示見学に始まり、出前授業や土器づくり、炊飯体験等全部で7回の活動を実施した。詳細な内容は第16表のとおりである。

回数	月 日	場 所	内 容	対象	人 数
第1回	4月30日	埋蔵文化財センター	施設見学	6年生	47
第2回	5月30日	府中小学校	出前授業（旧石器～縄文）	6年生	47
第3回	6月13日	府中小学校	出前授業（弥生）	6年生	47
第4回	6月20日	府中小学校	土器づくり	6年生	47
第5回	10月24日	府中小学校	土器焼き	6年生	47
第6回	10月31日	府中小学校	土器炊飯	6年生	47
第7回	11月28日	府中小学校	勾玉づくり	6年生	47
合 計					329

第16表 坂出市立府中小学校との連携事業一覧

・夏休み子どもミュージアム「むかしむかし体験まつり～古代の技術に挑戦しよう！～」

内 容	会 期	人 数	備 考
子ども考古学教室 〔展示解説と埴輪づくり〕	8月7日	44	
勾玉づくり	8月23・24日	34	
土器づくり		13	
分銅形土製品・土笛づくり		28	
ガラス玉づくり		71	
弥生人体験キャンプ2008	8月9日～8月10日	19	5家族
合 計		209	

・体験教室「土器焼き体験&史跡めぐりウォーク」

内 容	開催日	人 数	備 考
土器焼き体験・史跡めぐり	11月15日	32	
合 計		32	

・考古学体験講座「青銅鏡をつくろう！」

内 容	開催日	人 数	備 考
鋳型づくり	10月18日	11	
鋳込み・研磨作業	11月3日	10	
合 計		21	

全事業合計参加者人数

262

第17表 夏休み子どもミュージアムと考古学体験講座等一覧

## 5 夏休み子どもミュージアム

例年と同じく、学校の夏季休業期間にあわせ、「夏休み子どもミュージアム」と題し、展示や考古学教室、体験教室等を開催した。

展示は、発掘調査で出土した古墳時代の埴輪を中心にして、香川県立文書館で開催し、多くの子どもたちでぎわった。

展示解説は「子ども考古学教室」と題し、展示会場において展示資料を見ながら専門職員がわ



写真 38 むかしむかし体験まつり（土笛づくり）



写真 39 むかしむかし体験まつり（分銅形土製品づくり）



写真 40 夏休み子どもミュージアムこども考古学教室



写真 41 夏休み子どもミュージアムこども考古学教室



写真 42 文化ボランティアによる指導（豎笛づくり）



写真 43 文化ボランティア現場研修



写真 44 弥生人体験キャンプ



写真 45 弥生人体験キャンプ

かりやすく紹介し、合せて、粘土を使った「はにわづくり」も行った。

体験講座は、従来、外部からの依頼によって出前講座として出張していた古代技術の体験講座を、当センターの主催で一元的に行うもので、8月23・24日の土・日曜日に実施した。メニューは勾玉づくりや土器づくり、ガラス玉づくり、分銅形土製品&土笛づくりの4つを設定し、2日間で約150人の参加があった。

また、昨年度に引き続き、体験講座の一環として、8月第1週目の土・日曜日を利用して、屋外展示場において1泊2日の「弥生人体验キャンプ2008」を開催した。貫頭衣づくりから、勾玉づくりや弓矢の体验等をメニューにして実施した。

## 6 考古学体験講座「発掘！ドキ（土器）メキ 夏休み！」

毎年子どもの埋蔵文化財への興味や理解を深めるために、平成14年度から小・中学生を対象とし、発掘体验を中心とした体験講座を開催してきたが、今年度は8月19日に善通寺市旧練兵場遺跡で発掘体验を実施した。

当日は、小・中学生20名が、暑い中、発掘体验やガラス玉づくりの体验等を行った。終了間際には雨模様となつたが、子どもたちの歓声が現場にこだましていた。

## 7 考古学体験講座「青銅鏡をつくろう！」

従来、体験教室は児童・生徒を対象にしたもの多かつたが、一般の方の埋蔵文化財への興味や理解を深めるために、初めて考古学体験講座を実施した。内容は、青銅鏡づくりで、2日間コースである。第1日目に石膏で鉄型を作り、第2日目に青銅を流し込んで磨く、というものである。

第2日目の鉄込みはあいにくの雨であったが、参加者は七輪で青銅が溶ける様子を見、また、磨けば磨くほど輝く青銅鏡に歓声をあげていた。

## 8 広報誌の刊行

広報誌「いにしえの讃岐」58～61号を刊行した。これまで以上に、わかりやすい内容を掲載することを念頭において編集し、内容は、発掘調査や整理作業の最新の成果、速報展等の誌上再現、保存処理のミニ知識、普及啓発活動成果、県内の遺跡の紹介等の記事を掲載した。各号の目次は第18表のとおりである。

## 9 文化ボランティア活動

20名の文化ボランティアに発掘調査や普及啓発活動の写真・ビデオによる記録撮影と各種の普及啓発活動のサポートを行っていただいた。

主な活動は相手方の依頼に応じたものとなるため、ボランティアの皆さんには不定期の活動に対する日程調整が難しかったり、県内各地へ出向いていただいたらで不便をおかけしたが、活動

回数は昨年度並であった。また記録撮影の成果品は、「いにしえの讃岐」や「さぬき教育ネット」等の広報活動で随时、活用させていただいた。

なお、本事業は、次年度より各施設での独立した事業となり、埋蔵文化財センター文化ボランティア事業としてリニューアルしていく予定である。

号数	内 容
58号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新!!発掘情報 旧練兵場遺跡、東坂元秋常遺跡、多肥平塚遺跡</li> <li>・特集 講岐国府跡研究をふりかえる</li> <li>・埋文センター発信！           <ul style="list-style-type: none"> <li>整理室だより 大瀧遺跡</li> <li>保存処理室だより 木製遺物の保管</li> <li>ぶらり遺跡めぐり 白峯寺十三重塔</li> <li>夏～秋の催しもの案内</li> <li>夏休み子どもミュージアム</li> <li>速報展のご案内</li> </ul> </li> </ul>
59号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新!!発掘情報 旧練兵場遺跡、東坂元秋常遺跡、多肥平塚遺跡、仲戸・仲戸東遺跡</li> <li>・2008夏点描 本当に暑い夏でした。</li> <li>・埋文センター発信！           <ul style="list-style-type: none"> <li>整理室だより 木太中村遺跡</li> <li>景観に探るふるさとの歴史 作田川の堤防</li> <li>秋～冬の催しもの案内</li> <li>速報展のご案内</li> <li>文化ボランティアの活動から</li> </ul> </li> </ul>
60号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新!!発掘情報 旧練兵場遺跡、仲戸・仲戸東遺跡、誉水中筋遺跡</li> <li>・特集 第5回 四国地区埋蔵文化財センター巡回展 発掘へんろ「～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～」</li> <li>・埋文センター発信！           <ul style="list-style-type: none"> <li>整理室だより 旧練兵場遺跡</li> <li>景観に探るふるさとの歴史 空から探るため池の跡</li> <li>冬の催しもの案内</li> <li>文化ボランティアの活動から</li> </ul> </li> </ul>
61号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新!!発掘情報 旧練兵場遺跡、仲戸・仲戸東遺跡、誉水中筋遺跡</li> <li>・特集 香川の石の物語</li> <li>・埋文センター発信！           <ul style="list-style-type: none"> <li>整理室だより 「支脚」旧練兵場遺跡</li> <li>香川県埋蔵文化財センター速報展 「知られざる善通寺北部の遺跡群～小塚・稻木北・永井北遺跡～」</li> <li>一年を振り返って</li> </ul> </li> </ul>

第18表 広報誌「いにしえの讃岐」一覧

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館等	出版社・新聞社	個人・他
遺物	2	0	4	0	10
写真・パネル	1	0	7	2	5
レプリカ・模型	0	0	0	0	0

第19表 資料貸出・利用一覧（数字は件数）

## 10 資料の貸出・利用

出土品や撮影記録等の埋蔵文化財資料の活用を図るため、展示以外に、学校や埋蔵文化財関係機関等からの資料貸出、資料調査、写真掲載等の要請に応えた。

平成20年度の利用実績については、第19表のとおりである。

## 11 研究紀要の刊行

職員の日常における埋蔵文化財の調査・研究の成果をまとめ、業務に反映することを目的に、「香川県埋蔵文化財センター研究紀要V」を刊行した。内容は以下のとおりである。

信里芳紀「旧練兵場遺跡を描くにあたっての二、三の問題」

木下晴一「坂出市川津町の古代のため池跡」

長井博志「川津一ノ又遺跡の官衙的建物群について」

歳本晋司・森下英治「古代南海道推定地における近世造構をめぐって」

森下友子「紀太家由緒書」

## 12 新聞連載

毎週水曜日の四国新聞に連載していた「古からのメッセージ さぬき歴史教室」は、今年度も「さぬき歴史教室⑥」として、継続して実施した。昨年度までは、執筆陣に市町教育委員会職員も加え文化財一般を取り上げたが、今年度からは、2ヵ年計画で、代表的な考古資料を専門家の目から見た内容にリニューアルし、執筆は埋蔵文化財センター職員のみで行った。また、月に1回、「車で訪ねる歴史遺産」と題し、県内の代表的な古墳等、見学できる遺跡を地図と写真で紹介した。なお、連載は次年度も継続して行っていく

### 13 博物館実習・職場体験学習

これまでにも行ってきた中学生の職場体験学習の受け入れを行ったほか、初めてインターンシップとして、香川大学の学生の受け入れも行った。作業内容は、出土品の接合・実測、貸出品の検索・収納、ワークショップ準備、展示作業の補助等である。受け入れた学校並びに人数については第20表のとおりである。

学校	期間	人数(人)	備考
香川大学	8月6日～10日	3	インターンシップ
高松市立香東中学校	9月29日～10月3日	3	職場体験学習
丸亀市立綾歌中学校	11月5日・6日	8	職場体験学習
坂出市立坂出中学校	12月1日～5日	3	職場体験学習
坂出市立白峰中学校	1月28日～30日	4	職場体験学習

第20表 博物館実習・職場体験学習一覧

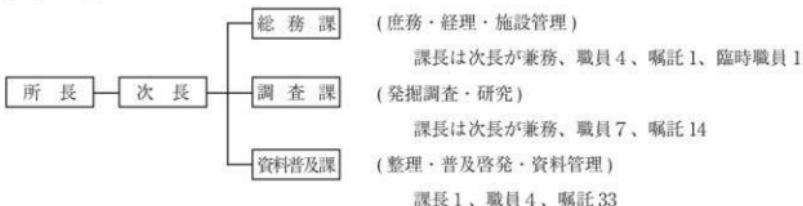
### 14 刊行物一覧

- ・香川県埋蔵文化財センター年報 平成19年度
  - ・香川県埋蔵文化財センター研究紀要V
  - ・広報誌「いにしえの讃岐」 58～61号
- ※発掘調査報告書は「整理・報告事業」にまとめた。

## IV 組織・施設

### 1 香川県埋蔵文化財センターの組織

#### (1) 組織



#### (2) 職員

所 属	職 名	氏 名	備 考
所 長		大山 真充	
次 長		廣瀬 常雄	
総務課	課長(兼務)	廣瀬 常雄	
	主任	宮田久美子	
	タ	鶴田 和司	
	タ	古市 和子	
	タ	広瀬 健一	
	嘱託	松尾 哲三	
調査課	課長(兼務)	廣瀬 常雄	
	主任文化財専門員	西村 尋文	
	文化財専門員	山下 平重	
	タ	森下 友子	
	タ	山元 素子	
	タ	藏本 晋司	
	タ	信里 芳紀	
	タ	長井 博志	
	嘱託	砂川 哲夫	
	タ	東原 輝明	
	タ	今井千佳子	
	タ	木野戸 直	(～H20.9)
	タ	藤井菜穂子	
	タ	林 悠香	(～H20.11)
	タ	木全加珠美	(H20.10～)

所 屬	職 名	氏 名	備 考
資料普及課	課 長	西岡 達哉	
	主任文化財専門員	北山健一郎	
	文化財専門員	木下 晴一	
	タ	森下 英治	
	タ	宮崎 哲治	

第 21 表 職員一覧

## 2 施設の概要

(1) 所在地 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

(2) 敷地面積 11,049.23m<sup>2</sup>

(3) 建物構造・延床面積

①本 館	鉄筋コンクリート造・2階建 (一部鉄骨造・平屋建)	1,362.23m <sup>2</sup>
②分 館	鉄骨造・2階建	337.35m <sup>2</sup>
③第1収蔵庫	鉄骨造・2階建	1,525.32m <sup>2</sup>
④第2収蔵庫	鉄骨造・3階建	2,040.33m <sup>2</sup>
⑤車 庫	鉄骨造・平屋建	29.97m <sup>2</sup>
⑥自転車置場	鉄骨造・平屋建	25.00m <sup>2</sup>

香川県埋蔵文化財センター年報

平成 20 年度

平成 21 年 8 月 7 日 発行

編集・発行 香川県埋蔵文化財センター

〒 762 - 0024

香川県坂出市府中町南谷 5001 番地の 4

電話 (0877) 48 - 2191

FAX (0877) 48 - 3249

印 刷 四国工業写真株式会社